

平成26年8月18日

豊田市議会議長 都 築 繁 雄 様

環境福祉委員会  
委員長 加藤 和男



### 委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

#### 記

- 1 日 程 平成26年7月29日(火)～31日(木)
- 2 派 遣 先 29日(火)・・・鹿児島県薩摩川内市／  
及び内容 ラムサール条約湿地「蘭牟田池」の  
保全と活用の取組  
  
30日(水)・・・鹿児島県鹿児島市／  
社会福祉法人 しょうぶ学園  
障がい者施設の取組  
  
31日(木)・・・福岡県大牟田市／  
社会福祉法人 東翔会  
高齢者の見守りと地域との連携
- 3 派遣委員 委員長 加藤 和男  
副委員長 木本 文也  
委 員 岩月 幸雄 山内 健二 日惠野雅俊  
鎌田ひとみ 根本 美春 山田 主成  
古木 吉昭
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 随行 / 成瀬 剛史、塚田恵理子

## 視察報告書様式【1】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	加藤和男
視察日時	平成26年7月29日（火）午後2時30分～午後4時00分		
視察先・概要	鹿児島県薩摩川内市 人口：約9万9千人 面積：683.50k㎡		
視察内容	ラムサール条約湿地 藺牟田池の保全と活用の取組		
選定理由	<p>藺牟田池（いむたいけ）は、平成17年（2005年11月登録）にラムサール条約湿地に指定されている。</p> <p>藺牟田池の周辺には、宿泊施設、キャンプ場などの施設が整備され、池の周囲を巡っているサイクリングロードは自然観察の場にもなっている。藺牟田池の生態系を保全するために、釣った外来魚の再放流を禁止する条例が制定されている。地元住民団体や学校等で外来魚駆除の釣り大会が開催されるなど、外来魚の駆除を通して環境教育の場としても利用されている。このような取組は本市の湿地の整備事業の事例として参考になると判断した。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市において、「東海丘陵湧水湿地群（矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地）」23haが平成24年7月7日にラムサール条約湿地群に登録された。平成26年度は、湿地の周辺整備を行う予定となっている。その後の、湿地の保全、湿地活用の取組については整備終了後の検討事項となっている。保全の取組としての条例制定などの課題がある。</p>		
視察概要	<p>祁答院支所の大木支所長より歓迎のお言葉をいただき、藺牟田池のDVDを鑑賞した。その後、内田環境課長より藺牟田池の概要と取組などについて以下のことについて説明を受けた。バスで移動し藺牟田池の見学と湖畔にある生態系保存資料館「アクアイム」とビオトープの見学をした。見学中に職員に質問をした。</p> <p>1 藺牟田池の概要</p> <p>① 昔、イグサの有数の産地</p> <p>② 沼・湿地(牟田)があったことが、名の由来</p> <p>③ 標高295m、水深3.5m、周囲3.3km、面積約60haの火口湖。周囲を6つの外輪山に囲まれている。</p> <p>藺牟田池の水の利用</p> <p>① 灌漑用水として利用</p> <p>② 下流の水田に利用</p> <p>藺牟田池の指定</p> <p>① 1921年(大正10年)国の天然記念物指定</p> <p>② 1953年(昭和28年)県立自然公園指定</p> <p>③ 1996年(平成8年)ベッコウトンボ生息地保護区指定</p> <p>④ 2005年(平成17年)ラムサール条約に登録</p> <p>2 藺牟田池の環境保全の取組</p> <p>藺牟田池環境調査</p> <p>① 平成18年度から継続的に環境調査実施。基本調査は水質と底質</p> <p>② 平成18年度：外輪山内側の動物調査</p> <p>③ 平成19年度：池内の動物調査。その後3年毎に生物調査を実施</p> <p>④ その他の調査項目：気象情報、水位、水量など</p> <p>ボランティアクリーン作戦</p> <p>① 平成17年5月(登録前)から実施</p> <p>② ベッコウトンボを保護する会</p> <p>③ 平成24年度からAQUA SOCIAL FESの協賛により、夏～秋：動植物観察会&amp;ボランティアクリーン作戦を実施</p>		

	<p>外来魚対策</p> <p>① 環境省のモデル事業としてベッコウトンボの影響を低減するため、オオククチバスなどの防除を実施。藺牟田池方式として、池の水を排水することなく、繁殖抑制や個体数低減を行う手法を開発</p> <p>②外来魚の再放出(リリース)禁止など外来魚回収ボックス設置 ビオトープの設置</p> <p>① 平成21年に大濁水があり、水位はほとんどなくなり、ベッコウトンボの生存の危機があったため、対策として人為的に水位を調整できベッコウトンボが産卵・ふ化を期待してビオトープを設置した。</p> <p>3 藺牟田池の活用の取組</p> <p>①ベッコウトンボ観察会を春に開催。全国トンボ市民サミットも開催。 動植物観察会を夏から秋に実施</p> <p>② ビオトープ観察会を実施</p> <p>③ 藺牟田池周りにキャンプ場、サイクリングロード、遊歩道が整備されている。</p> <p>④ 年に1回花火大会</p> <p>4 今後の課題</p> <p>①行政からの予算が少ない</p> <p>②保全する後継者の確保</p> <p>③観光と環境のバランス</p>
<p>評価と その理由</p>	<p>1 濁水を機にベッコウトンボ生存が危惧される中、人工的にビオトープを設置し、今では効果としてベッコウトンボの確認数が増加したことは大いに評価する。</p> <p>2 子どもたちの教育にも取り入れて観察会を実施し、ベッコウトンボが希少野生動物種であることを認識させていることは、いいことである。</p> <p>3 ボランティアが保全対策に貢献していることに評価する。</p>
<p>本市に反映 できること</p>	<p>登録面積が本市と比べ物にならないので参考とすることが少ないが</p> <p>① 生態系保存資料館などの建設。(自然観察の森と連携してうまく利用すれば不必要だが。)</p> <p>②観察会などを企画して湿地の宣伝し関心を持っていただくこと。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>本市においては平成24年度にラムサール条約に登録され湿地の保全と賢明な利用のため、本年度外周フェンス、木道・観察デッキなどの整備が進んでいる。</p> <p>ハード事業は行政が進めているが、保全管理などはボランティアに期待するところが多い。今は地元の方が活動しているが、今後高齢化が進み、後継者が問題となってくると思われるのが今後の課題。</p> <p>藺牟田池は、年間利用数が約10,000人前後で推移されており、花火大会の開催などで利用数の増加を図られているが、藺牟田池一帯は、薩摩川内市だけの財産でなく、日本の自然保護など含めて貴重な財産である。</p> <p>その貴重な財産を小中学校などの総合学習の一環として教育委員会との連携により、有効的に学習対象施設として活用展開が図られることを希望する。</p>

## 視察報告書【2】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	加藤和男
視察日時	平成26年7月30日（水）午後1時30分～午後3時00分		
視察先・概要	社会福祉法人 太陽会 しょうぶ学園（鹿児島県鹿児島市） 従業員数：60名（2009年3月現在） 創立 1973年（昭和48年）4月1日		
視察内容	障がい者施設の取組		
選定理由	<p>しょうぶ学園は、障がい者支援センターとして、様々な取組を行っている。特に、ものづくりを通じての活動は、完成した作品の質も高く、高い評価を受けている。ものづくりを行うことでの自立支援、ものを作り出すことでの文化創造、つくりだしたものを通じての地域交流事業を軸に活動している。</p> <p>本市における、障がい者施設の取組を調査・検討するうえで、良い視察事例であると判断した。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市では、障がい者支援施設における取組はあるもの、しょうぶ学園ほどの規模での展開は行っていない。</p> <p>本年6月にアンテナショップ福祉の店「きらり」が豊田市駅前松坂屋上階にオープンし、より一層市民への周知活動など積極的に取り組む必要があるため、施設の取組の観点から研究すべき項目である。</p>		
視察概要	<p>しょうぶ学園内の「そば屋凡太」にて昼食をいただく。その後、福森さんより歓迎の挨拶をいただき、学園の概要について説明を受け、続いて学園内の施設を視察し、所々で説明を受けた。施設の視察終了後、学園の統括施設長である福森伸さんより学園の方針などをお聞かせいただいた。</p>		
評価とその理由	<p>障がい者施設は、一般的に指導・訓練して少しでも社会に復帰することを目的としているが、なかなか一般就労は難しい現状を考え、下請けをやめ、しょうぶ学園では自分たちで職員と障がい者と一緒になって頑張るものづくりをしていくというところに感心し興味を持った。</p> <p>園内の「つくりだすくらし」の中では、布の工房、木の工房、土の工房、和紙の工房、食の工房、絵画・造形の工房、花と野菜の工房があり、入所者・利用者が生き生きと生活していることは素晴らしと感じた。また、障がい者が作ったものを商品化していく職員には厳しく接しているとのことで大変だと思ったが、素晴らしい商品が出来ていた。作品は園内で販売している。また、商品の一部はアートとして各地域で展示会に出展までしていることは大いに評価する。</p> <p>施設長の熱意と考え方に感銘した。入所者・利用者が、学園でものづくりをしていることが本人にとって幸福なのか、学園での生活が幸福なのか、障がい者の人格、個性を尊重した事業に取り組まれていることに対して評価する。</p>		
本市に反映できること	<p>一概に本市に反映できることは難しい。（民間業者だからできるのだ）</p> <p>しょうぶフレンドシップ倶楽部会員募集（個人会員一口2,000円、企業・団体会員各一口5,000円）して、年間4回季刊誌、各種案内などを案内している。</p> <p>本市にも福祉の店「きらり」がオープンし市民への周知活動するためには、宣伝活動が課題であるため参考にするとよい。</p>		

<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>願望として、豊田市にもしょうぶ学園の園長のような熱意のある事業者が総合的な施設を作っていただくことを願っている。</p> <p>障がい者施設は、社会との交流の中で、障がい者と地域との関わりを保つことは重要と思われる。</p> <p>そのため、施設から色々な情報を発信するとともに、施設を開放し、障がい者の作品展示販売、飲食ができる機能と複合的な施設展開で、障がい者の自立や主体性を発揮する運営が必要と思われる。</p> <p>豊田市としても、障がい者施設が社会や地域との交流をはじめ、開かれた施設、障がい者の自立性のもと、入居なり通所なり一般社会との交流を基本とした障がい者施設が望まれる。</p>
-------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 視察報告書【3】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	加藤和男
視察日時	平成26年7月31日（木）午前11時00分～午後12時30分		
視察先・概要	社会福祉法人 東翔会（福岡県大牟田市） 大谷 るみ子 氏 1990年 医療法人 東翔会 東原整形外科病院看護部長 1994年 特別養護老人ホームたいめい苑看護・介護部長 1996年 デンマーク日欧文化交流学院にて福祉を学ぶ 2001年 社会福祉法人東翔会 グループホームふぁみりえホーム長		
視察内容	高齢者の見守りと地域との連携		
選定理由	福岡県大牟田市では、高齢者の見守り施策として先進的な取組を行っている。現場の立場で活動を支えている社会福祉法人の取組を伺うことで、地域との連携方法など実際の「現場の声」をきくことができ、本市のこれからの取組の参考となると判断した。		
豊田市の現状と課題	本市においては、高齢者見守りネットワークとして、高齢者の見守りシステムは構築されているが、実際にその機能が有効に働いているのか、実例が少ない状況にある。		
視察概要	社会福祉法人 東翔会 大谷るみこさんより歓迎の挨拶をいただき、早速スライドを参照し「高齢者の見守りと地域との連携』について ①高齢者の見守り事業の概要 ②地域との連携の実態 ③事業における行政とのかかわり ④今後の課題 概要説明を受けた。その後、施設を視察しながら個々に説明を受けた。  高齢者の見守りと地域との連携 認知症の方が徘徊しても安心して暮らせるまちづくり事業を推進している。子どものころから学び触れる機会として、小中学生に絵本を使って認知症を認識させる授業をしている。10年で6,000人とのこと。 認知症コーディネーターを養成している。研修として2年間406時間で修了。これまでに修了生は95名、すべてボランティアとして色々な施設に配属し活動している。 認知症徘徊者の搜索を模擬訓練している。大牟田市は21校区で、最初に模擬訓練した校区は「はやめ南校区」であり今は他の校区に広がっている。 連絡網は自治区長、民生委員、タクシー、商店、消防、地域住民などである。		
評価とその理由	大牟田市は、全国的に認知症の方が徘徊しても安心して暮らせるまちとして知名度の高いことは、今までの各取組が認められたことだと思う。 子供のころから認知症の授業を取り入れ、子どもたちに認知症を理解させていることは大いに評価する。 授業に取り入れるために行政との話し合いには熱意とエネルギーを注がれたことは大いに評価する。		
本市に反映できること	小中学生に認知症を理解するために授業に取り入れることは大事なことで必要であり、参考にすべきである。 豊田市でも認知症の方の搜索模擬訓練は包括支援センターなどが主催で自治区、民生委員などと連携して実施しているとのことだが、必要なことなので今後も範囲を全市的でなく、コミュニティー単位、小学校単位で実施していただきたい。（大牟田市の連絡網などは参考すべきである。）		

<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>担い手の大谷さんは熱意があり感銘した。このような方が本市にもおられると思うので今後に期待。</p> <p>小中学生の授業には認知症だけでなく、障がい者など福祉全般のことも取り入れていくことも必要だと思う。</p> <p>認知症による徘徊者がみえる家庭の大変さは理解できる。そのため、地域全体で支え合える環境が必要と思われる。</p> <p>大牟田市の原点として、「笑顔による声かえ」運動の推進により、研修などにより、その受講者が核となり「輪」を広げている。</p> <p>そうした状況は短期間で確立するものでなく、地道な理解・啓蒙活動によるものである。</p> <p>人は、だれでも「認知症」になる可能性がある。家庭・地域がそのような症状に偏見を持つことなく、温かく見守る雰囲気を作り出すことが「明るい社会、安全で安心のできる社会」の構築が可能と思われる。</p> <p>一足飛びにできるものではないと思われるため、モデルケースとして小単位でも良いので研究、検討の必要性を感じる。</p>
-------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------